

AWC 通信

タイの洪水

マリ・クリスティーン

今年はいまだに長い暑い夏でした。夏服を片づけられず、このまま秋を飛ばして冬が来てしまうのだろうか？それとも冬もなかなか来ないかもしれないと心配をしました。訪れた冬も乾燥が著しいです。

暑さのみならず大雨も各地を襲いました。特に能登半島地震の被災地での土砂崩れは、地震後の復興が遅れている状況の中で再び大きな被害を出しました。私は、6月に能登半島地震の被災地を訪問しました。

大地震から半年が過ぎても多くの建物が壊れたままの状態で見捨てられており、地割れした道路も修復されていない箇所が多数あるのを見てきました。そんな状況下でさらに洪水に被災された方々のことを思うと本当に心が痛みます。

ニュースには「異常気象」「気候変動」という言葉が連日のように登場しています。この現象は現在、世界中に広がり大雨、干ばつ、ハリケーン、山火事などの様々な影響が出ています。

9月初めには台風11号の影響で、私たちの協力先であるタイでも50年に一度という大雨による災害が発生しました。タイ最北のチェンマイ県、チェンライ県は各地で大規模な洪水が発生して、山間部では鉄砲水



北タイの村を襲った大洪水

や土砂崩れ、長雨による地盤沈下などが起き、被害は甚大でした。

9月下旬にはチェンライ市街地にも水が押し寄せ、多くの市民が被災しました。コック川の氾濫では、カレン族が暮らしているクエワダム村やルワムミット村も大きな被害が出ています。



泥が家の中まで入り込みました

タイの山の人々の住居は高床式の家が多く、地面から1メートルくらい上で暮らしています。その高床式の家にも室内に泥水が押し寄せ、それをかき出すのが大変な作業となりました。ミャンマーとの国境のまちであるタイ最北のメーサイでは、のどかなタイの田舎町の風景が一変して多くの被災者が出ると共に、衛生状態の悪化や避難生活の長期化が大きな問題となりました。



ボランティアとスタッフの復旧作業

何か支援をしなければと思っていた矢先に、現地で活動する「Sharing Eco Tour & Homestay」の伊能さんから支援要請の連絡を受け、10月初めに支援金を送りました。支援金は救援物資、土砂を清掃するための道具、洗浄ポンプに利用するガソリン購入等に活用されました。この団体のスタッフは、洪水発災直後からボランティアの方々と共に、懸命な復旧作業をされました。住宅や店の泥を掻き出し、高齢者や障がい者を優先して家屋の修繕などを住民たちと共に行い、村の復興に大きな貢献を果たしました。

「気候変動」の原因は温室効果ガスによる「地球温暖化」です。そしてそれは、私たちが暮らす中で二酸化炭素を大量に排出していることに起因しています。電気やガスを使い、車での移動や、使い捨てプラスチックを利用することが当たり前の便利な生活が、温暖化をもたらしているのです。SDGsの目標13は、「気候変動に具体的な対策を」です。この課題を少しでも解決に近づけるためには、国レベルでの政策、戦略、計画に加え、各個人の努力も欠かせない要素です。本当に難しい課題ではありますが、私自身も自分の生活を改めて見直さなければならないと動き出しています。

おなかいっぱいプロジェクト

今年もチェンライ県ファーン郡の4か所の保育園に給食費を届けました。これらの保育園には、現在120名の子どもたちが通っています。全員がミャンマーから爆撃を逃れてタイに来た子どもたちです。

ミャンマー国内の少数民族居住地域での紛争は激しさを増しています。ミャンマー国軍は徴兵制度を交付し、2024年までに14万人もの、女性を含む若者が強制的に兵役に従事させられています。兵役を避けるために国境を越えタイに避難してくる人々も増加し続けています。国境に近いファーン郡では、ミャンマーから逃げてきた多くの人々がミカンや竜眼などの畑で働いています。国籍も身分証明書もないために多くが非正規の雇用です。その労働者の子どもたちはタイ語ができないことに加え、強制送還を恐れて保護者が学校に連絡を入れない事などが重なり、就学年齢になっても学校に通えず、教育を受けられない場合が多いです。

これらの子どもたちのために、タイ語の読み書きなどの教育を行い、一日一食の栄養ある給食を食べられるようにしているのがタイのNGO、APCYF (Association for Promotion of Children Youth and Family) です。私たちはここ数年、このNGOを通して給食を届けています。子どもたちが心身ともに健康に成長することを、心から願っています。



子どもたちが楽しみにしている給食の時間



教育を受けられない子どもたちのための教室

子どもへの性暴力の根絶を求めて

11月19日に海外から司会者とパネリストを招いて、子どもへの性暴力の防止をより強化するための集会「海外の取り組みから学ぶ～子どもの性暴力防止の動き～」が衆議院第一議員会館で開催され、マリと山本が参加しました。

パネリストからは、子どもは受けた性暴力を自分の中に閉じ込め、そのために何年も苦しみ続ける事、被害者の65%が被害を開示するのは50歳以降である事などが様々な事例と共に報告されました。そして、子どもの性犯罪に終止符を打つためには、政府、サバイバー、協力者等のステークホルダーが結束をしていなければならない、その中でも「公訴時効」の撤廃が大変重要であるということが述べられました。

2007年に欧州評議会が締結したランサローテ条約(子どもの性的搾取及び性的虐待からの保護に関する条約)では子どもの性犯罪の「公訴時効」に関する勧告が述べられており、G7各国は撤廃の方向で動いています。しかし、現在の日本の法律では、おとなになってからでは時効が切れて訴えることができません。子どもの性被害は深刻な問題です。子どもは、自分の受けた被害や傷を誰にも話すことができません。最も人に知られたくないプライバシーの傷を抱えながら生きている辛さは想像に難くありません。集会では、日本にも性犯罪に対する「公訴時効」が撤廃できるよう法律改正の実施を求められていました。

私たちはここ数年、「子ども買春・子どもポルノ禁止法」を始めとする子どもの性的暴力に関する法律の改正を求めて署名活動を行い、皆様からの署名を衆参両議員に届け続けています。子どもの性的暴力を根絶するために、



会議の司会者ボブ シリングさんとマリ代表

子どもたちの環境保全活動

バーン・メーランカムスクールは現在、女子56名、男子64名の全校生徒数が120名となりました。ここ数年で生徒数が減少しています。

この学校では、一週間に一度実施されているボーイスカウト、ガールスカウトの時間などに学校のごみ拾いを行っています。集めたゴミはしっかりと分別して、資源ごみは先生たちが下の村の買取店に持参します。ゴミが売れたお金は子どもたちの学用品やおやつ代などに活用されているそうです。



校内のごみを協力して集めている子どもたち

新しい門出を祝福

バーン・メーランカムスクールの卒業生であるパッカモンさんは、長年学校の補助教員として働きながら寮で暮らす子どもたちの世話をしていました。彼女は正式な教員の資格がないため補助を続けておりましたが、昨年一念発起して猛勉強をし、教員試験と国家公務員の試験を受けました。頑張った甲斐があり正式な教員免許を取得し、さらに国家公務員試験にも教師として合格することができました。現在は新しい赴任先が決まるまで、バーン・メーランカムスクールで総務の仕事をしています。

彼女は、村で育ったから村のために働きたいと言っていますが、赴任先を選ぶことはできません。最初の4年間は決められた赴任先で働き、その後に希望すればバーン・メーランカムスクールに戻ってくるができるそうです。

新しい門出を心から祝いたいと思います。



マリ代表とパッカモンさん

AIDS 孤児里親基金

希望の家には現在7歳～20歳までの子どもたち28人が暮らしています。この子どもたちに今年も奨学金を送りました。

今年は、大きな水害があったために、子どもたちは近隣の復旧作業などにも参加しています。寮長のタッサニーさんの指導の下、子どもたちが協力して勉強の他に、農園の世話や自分たちの食事作りなどの作業にも励んでいます。



希望の家の子もたち

キルトを届けました

毎年私たちのところに手編みのキルトをお届けくださる方がいらっしゃいます。

このキルトを8月に、チェンマイ市内にある、主に建設現場で働く、ミャンマーから来た人たちが住んでいるスラムに届けました。まだタイに来たばかりで生活用品などは何も揃っていない人たちです。8月は北タイではすでに秋で、夜になると少し冷えます。小さな赤ちゃんなどもいるので、毛糸のキルトの暖かさがとても喜ばれました。



届けられた手編みキルト

AIDS文化フォーラム

8月2日～4日「第24回 AIDS文化フォーラムin横浜」がかながわ県民センターで開催されました。

今年のテーマは「伝えるむずかしさ」。私たちは、盗撮、SNS、AIによる合成などで近年深刻化している子どもポルノをめぐる課題に関しての現状を伝える展示を行い、来場の方々に法律改正の重要性を伝えました。



ポレポレまつり

10月26日(土)に、横浜市中区社会福祉協議会主催の「ポレポレまつり」が本牧いずみ公園で開催され、今年も参加しました。来場の方々に活動のお話を伝え、タイの手工芸品などの販売をしました。市民の方々と直接触れるイベントが少なくなっている中、とても良い機会となりました。



世界エイズデー

12月1日(土)、関内駅北口広場で開催された横浜AIDS市民活動センター主催の「世界エイズデー」に参加しました。今年のメッセージは、U=U(検出限界値未満=HIV感染しない)。U=Uとは、抗HIV療法の継続で、ウィルスが見つからない状態を6か月以上維持している陽性者からは、性行為によって他の人に感染することはないという、科学的な根拠に基づいたメッセージです。人々は横浜市消防音楽隊の演奏に足を止め、U=Uの話を聞いて下さいました。



ご寄付・ご協力御礼 (2024年1月1日～2024年12月27日) (敬称略・順不同)

【AIDS孤児里親基金】山口正子 五十嵐千恵子 花島磨理子 花谷泉 笠本雅己 伊東久 増井俊樹・笹田克子 谷口雅昭 安元真之・隆子 宮原孝 貴田晞照 秋元千代子 福島生子 福島咲 玉谷邦博 支援社の会ふーぷ 村田順子 佐藤利明 原梓 佐藤真吾 川辺次郎 大橋律子 山本嘉彦 清水雅子 出羽明子 マリクリスティーン

【おなかいっぱいプロジェクト】五十嵐千恵子 北村雅美 (株)ファランドール 川口幸博 塚本善弘 原幸一 大江泰子 一柳芳子 大橋真理子 堀江五十鈴 大濱悦子 (株)エムケイプロジェクトジャパン 尾形登志雄 谷口雅昭 増井俊樹 岩瀬佳子 山本良徳 安元真之・隆子 山本頼永 吉岡啓子 福島咲 糖澤佐和子 小林恵津子 宮原孝 西田洋一 原輝美 金子安男 塩入真知子 寺尾和子 鈴木八重子 支援社の会ふーぷ 岡部淑夫 半田あや 大槻裕美 小迫由里加 八島恵里 山本佳世 落合貴美恵

【AWC基金】自然農法無の会児島徳夫 早川すみえ 上野敏子 増井俊樹 渡邊勇夫 福島咲 太田有子 佐川久美子 坂口育子 田路あつ子・猛 国際ソロプチミスト横浜西 田口美恵子 安藤芳子

【おたがいさまプロジェクト】増井俊樹 新倉史朗 池山洋二 竹田英一・啓子 福島咲 支援社の会ふーぷ マリクリスティーン 山本博子

【書き損じはがき・切手】(株)ファランドール 村田順子 橋本美史 大橋真理子 北村雅美 佐藤真吾 伊藤康子 池谷朋子 半田あや 金子セツ子 重原文明 川辺次郎 小迫由里加 笠本雅己 渡辺和美 宮崎恵子 大塚久仁子・南美 福島咲 五十嵐千恵子 大槻裕美 堀江昭 高田ミチ子 茨木唯依 渡邊勇夫 山本頼永 岩瀬佳子 山梨ガールスカウト 相川治世 金子安男 巽司 古林能敬 横山泰子 渡辺和美 中川順子 竹田英一・啓子 安藤芳子 関野真二 田路あつ子・猛 野口圭美 内田みゆき 落合貴美恵 山本博子 マリクリスティーン 匿名希望の方々

※記入漏れ、間違いなどございましたら、お手数ですが事務局までご連絡ください。

ご寄付のお願い

アジアの女性と子どもネットワークの事業は、皆様のご寄付で実施しています。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

郵便振替 00200-0-4109
口座名: AWC

書き損じはがき ご寄付のお願い

「おなかいっぱいプロジェクト」は、書き損じはがき2枚で3食分の給食食材費になります。お手元の書き損じはがきや未使用切手をぜひAWC事務局までお送りください。子どもたちの健やかな成長のためにご協力をよろしくお願いします。

AWC事務局: 〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F YAAIC内

発行元: アジアの女性と子どもネットワーク (編集・山本博子、安藤芳子、落合貴美恵、原梓、出羽明子)

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F YAAIC内

